

フェルディナンド・R・マルコス・ジュニア大統領による  
日本国国会両院合同議会での演説

2026年5月28日

**“未来を共に織りなす:平和、繁栄、可能性”**

高市早苗内閣総理大臣閣下、

関口昌一参議院議長閣下、

森英介衆議院議長閣下、

国会議員の皆様、日比友好議員連盟の皆様、

ご列席の皆様、

この民主主義の象徴であるこの地と、日本国民の皆様、フィリピン国民を代表して心から  
のご挨拶を申し上げます、大変光栄に存じます。

両国が正常な外交関係を回復することを決めてから、70年が経過しました。私たちは、過  
去の影に縛られることなく、未来に向けたパートナーシップという希望を礎として、両国の歴  
史に新たな一章を刻むことを決意したのです。

フィリピンと日本の関係は、その根幹において、和解から深い相互信頼へと至る転換の物  
語であります。

戦後、エルピディオ・キリノ大統領は、「結局のところ、われわれは隣人となる運命なのだ」  
という信念に基づき、和解の道を選びました。私たちは過去と向き合い、和解を果たし、  
1956年7月23日フィリピンと日本は国交を正常化しました。

日本の賠償こそが、着実に信頼と友好関係を築いていったパートナーシップの出発点となりました。

「1996年公式開発援助法」により、これらの賠償金が制度的に長期的な開発へと組み入れられることが可能となりました。

賠償から援助に至るまで、私たちは強固な経済関係を築いてきました。この関係は、フィリピンにとって初の自由貿易協定である『フィリピン・日本経済連携協定』によってさらに強化されました。

現在、日本はフィリピンにとって最大の投資国として位置づけられております。

こうした強固な経済基盤は、相互の信頼を礎とする関係へと発展してきました。

これにより、両国は安全保障、海洋、防衛協力、強靱なサプライチェーン、そして人工知能や宇宙といった新興技術など、より複雑かつ戦略的な分野での協力が可能となりました。

和解から70年が経ち、私たちは今、相互の信頼がもはや単なるパートナーシップの成果にとどまらず、私たちの関係をさらに高い次元へと押し上げる原動力となっている段階に至っています。

この信頼関係が新たな高みに達するにつれ、私たちには平和、繁栄、可能性に向けて共に歩むための自信と手立てがもたらされるのです。

今日、経済や社会はかつてないほど相互につながり、密接に絡み合い、それによりかつてない機会がもたらされた一方で、世界のどこかで生じた混乱が他の多くの地域に波及する可能性があるため、新たな脆弱性も生じています。

しかし、まさにその一方で、技術の進歩に大きく支えられた人間の創意工夫こそが、今日の課題に対処するための手段を私たちに与えてくれるのです。そして、こうした課題の中でも最も重要なのが、平和の維持です。

## 平和: 共に担う責任

平和は、私たちの繁栄の基盤であり、そこから新たな可能性が生まれてくるのです。

戦争の廃墟の中から、フィリピンと日本は、分断ではなく和解を、無関心ではなく協力を選びました。

その選択は、今もなお私たちのパートナーシップの根幹を成しています。

ますます複雑化するインド太平洋地域において、ルールに基づく秩序のレジリエンスが緊張によって試される中、両国は一貫して、国際法の遵守、安定の促進、そして紛争の平和的解決を提唱するという決意を揺るぎなく堅持しています。

我々は、主権および領土保全に対する深い敬意、ならびに、規模や力の大小にかかわらず、すべての国家が平等であり、発言権を有し、国際的な規範および法に従って自らの発展を追求する自由を有するという我々の基本的な信念を改めて表明します。

海洋民主主義国家として、フィリピンと日本は、海洋安全保障の強化に取り組み、私たちの海が、開かれた、安全で、力ではなくルールに基づいて管理される海であり続けるよう尽力しています。

フィリピンは、ルールに基づく海洋秩序の維持において、引き続き主導的な役割を果たしてまいります。

今年7月、我々は国際法に基づく平和的手段と仕組みを通じて紛争を解決するという我々の決意を示す「南シナ海に関する仲裁判断」がされてから10周年を迎えます。

日本によるミンダナオの平和と発展への揺るぎない支援は、長年にわたり不安定な状況や紛争に苦しんできたこの地域の復興を、今なお支え続けています。

我々は、国際平和に対する日本の貢献を認識し、共通の利益だけでなく、共通の原則をも反映した、拡大する戦略的パートナーシップを重視してまいります。

このパートナーシップは、『円滑化協定』、『物品役務相互提供協定』、およびフィリピンの海洋状況把握能力と防衛能力の強化を支援する日本の『政府安全保障能力強化支援』といった枠組みを通じ、防衛・安全保障分野における協力の深化という形で具体的に示されています。

両国の協力関係は、人道支援や災害対応の分野でも明確に示されており、危機的状況においては互いに支援し合う態勢が整っています。また、法執行機関間の協力においても、国境を越えた犯罪との闘いや海上安全の促進に向けて連携しています。

これらすべての分野において、私たちのパートナーシップは、安全保障への取り組みだけでなく、国際社会の一員としての責任を果たすことへの共通の姿勢を映し出しています。

私たちは、各国が繁栄し、人々がその可能性を最大限に発揮できる平和な世界を守る義務を負っています。

なぜなら、繁栄はこの平和という土台の上に根を下ろし、そこにおいて私たちのパートナーシップは真に目に見える進展をもたらし続けているからです。

## 繁栄:成果をもたらすパートナーシップ

国会議員の皆様、

この美しい国を訪れるたびに、私は、日本の人々がフィリピンに対して示してくれる温かいおもてなしを実感してきました。

喜ばしいことに、フィリピン国民からもこの温かい思いが深く寄せられており、その背景には、フィリピンの発展を支援する日本の取り組みが大きく寄与しているのです。

このような相互の歓待の気持ちは、私たちの間に永続的な友好関係を築き、相互の信頼を深めることにつながりました。

日本は、フィリピンの経済発展において欠かせない役割を果たしてきました。

日本は常に我々の主要な貿易相手国の一つであり、対外直接投資の主要な供給源であると同時に、我々の最大の開発援助供与国でもあります。日本からの支援は、インフラ、交通網、そして人的開発を支え、我が国の列島全域の人々の生活を一変させてきました。

同時に、フィリピンは、高品質な農産物の安定供給を通じて、また、医療、教育、製造業、農業、サービス業など、日本の主要分野を支える約 36 万人のフィリピン人コミュニティの献身的な活動を通じて、日本の経済に貢献しています。

20 年前に締結されたフィリピン・日本経済連携協定は、両国の経済的連携の基盤となっています。

二国間協力が、デジタルイノベーション、エネルギー転換、強靱なサプライチェーン、スマート農業といった新たな分野へと拡大する中、私たちは、急速に変化する地経学的現実に対応するため、この枠組みを現代化しなければなりません。

この点において、経済的安全保障の推進は、両国にとって共通の優先課題でなければなりません。

私たちは協力し、不必要な依存関係を減らし、進歩が混乱や強制によって阻害されないようにしなければなりません。

なぜなら、私たちの目標は、強固な経済を築くだけでなく、包括的で公平な機会を創出し、現在および将来の世代の生活を向上させることでもあるからです。

### **可能性:未来を共に織りなす**

*国会議員の皆様、*

フィリピンと日本が国交正常化 70 周年を迎えるにあたり、私たちは自信と目的を胸に、未来を見据えています。

この節目のテーマである「未来を共に織りなす」は、今後 70 年間にわたる私たちの関係の指針となります。

まるで糸が丁寧に織り合わされるように、私たちの共有する経験、価値観、そしてビジョンは、一つに結集し、時代の移ろいにさらに強く、かつ柔軟に対応できる何かを形成するよう導かれなければなりません。

私たちの前に広がる可能性は計り知れず、すでに形になりつつあります。

これは、クリーンエネルギー、人工知能、そして宇宙協力など、新興技術分野における我々の多分野にわたる取り組みの拡大に見られるものであり、イノベーションが人類に奉仕し、持続可能で包摂的な開発を支えることを確実にするものです。

また、防衛産業と重要鉱物産業との間の連携をさらに深めることには大きな可能性があり、それは私たちの能力を強化するだけでなく、人材育成や技術の進歩も促進することになるでしょう。

私たちはこの二国間関係を、実質面でも形式面でも、米国をはじめとする志を同じくするパートナーとの協力拡大の基盤および拠点として築いてきました。

フィリピンが今年議長国を務める名誉をいただき、かつ日本が長年にわたり信頼できる対話パートナーとして携わってきた ASEAN において、我々は自由で開放的かつ包摂的なインド太平洋の実現を引き続き推進していきます。

国連やその他の多国間フォーラムにおいて、フィリピンと日本は、気候変動や健康安全保障から紛争予防や平和調停に至るまで、地球規模の課題に対する解決策を推進するために協力しています。

学生、芸術家、科学者、労働者、そして地域社会の間で、人々の絆をさらに深める機会は無限に広がっており、それによって両国の関係は単なる制度的なものにとどまらず、深く人間的なものとなっています。

*国会議員の皆様、*

70 年にわたる二国間関係は、数々の節目と新たな高みをもたらしてきましたが、この戦略的パートナーシップを支えているのは、過去だけではありません。

むしろ、私たちこそが、前を見据え続け、私たちの国民と地域のために、より大きく、より良いものを追求するという呼びかけに応えているのです。

技術の急速な変化や地政学的な情勢の流動性など、絶えず変化し続けるこの世界において、課題よりも協力の新たな機会の方が多く存在しています。共通の価値観と原則に基づいて築かれた自然なパートナーとして、私たちは、平和で安全かつ繁栄した地域を実現す

るという共通の願いのもと、フィリピン国民と日本国民の双方が成功し、繁栄できる社会を目指して、今後も緊密に連携して取り組んでまいります。

善意と相互信頼を礎に、共通の未来を目指して歩むという私たちの物語は、二国を遥かに超えた力強いメッセージを発信しています。

私たちのパートナーシップは頂点に到達しましたが、これからもさらに高みを目指し続けなければなりません。

平和への道筋を示し、共通の繁栄に向けた機会を分かち合い、そして両国、両国民、ひいては広範なインド太平洋地域全体に利益をもたらす新たな可能性を掴み取るような、戦略的協力の模範となるよう、共に努力していきましょう。

この議場において、皆様は、フィリピン国民が深い友情と敬意を抱く日本国民の意志を代表し、その声を代弁しておられます。

今後の展開——新たなアイデア、新たな地平、そしてまだ想像もつかない可能性——に対して心を開き、フィリピンと日本が私たちの共通の願いにふさわしい未来を築き続けていくことを願っています。

ありがとうございました。